



「礎入りの儀」でくわ入れをする布施市長

# 新斎場の建設 工事始まる

## 斎場安全祈願祭・起工式

老朽化に伴い、新しく建設する登米市斎場（火葬場）の安全祈願祭と起工式が10月25日、建設地の現火葬場隣接地で行われました。

式には市と工事関係者ら約50人が参加。布施市長が「斎



工事の無事を祈った安全祈願祭

場の建設は、合併の契機となった広域4事業の一つ。建設地が市街地に近いので、公害防止対策には万全を期しながら、住民皆さんが利用しやすい施設にしたい」とあいさつしました。

施設は、県内では仙台市に次いで2例目となる「バグフィルタ（集じん装置）」を導入。ダイオキシンの排出基準値も国の指針より10倍厳しい自主基準を採用しています。

建設期間中、現場付近は工事車両などが頻りに往来して大変混雑しますので、現火葬場を利用の際は乗り合わせをお願いいたします。

斎場の完成は、平成21年3月を予定しています。

場の建設は、合併の契機となった広域4事業の一つ。建設地が市街地に近いので、公害防止対策には万全を期しながら、住民皆さんが利用しやすい施設にしたい」とあいさつしました。

施設は、県内では仙台市に次いで2例目となる「バグフィルタ（集じん装置）」を導入。ダイオキシンの排出基準値も国の指針より10倍厳しい自主基準を採用しています。

建設期間中、現場付近は工事車両などが頻りに往来して大変混雑しますので、現火葬場を利用の際は乗り合わせをお願いいたします。

斎場の完成は、平成21年3月を予定しています。

# 手を取り合い協働でまちづくり

市からの補助を受け東和町米川地区でまちづくり事業を展開

### 【市道・裏観音線待避場整備事業】

動物の供養で知られる、華足寺への参道整備事業が9月10～16日に行われ、地域住民約25人が作業に当たりました。寺に行くことができる南北2本の山道は、車がすれ違うことができないほどの狭さ。作業は車の待避所がない北側の山道（通称：裏通り）の木の伐採や草刈り、山土の掘出・撤去、砂利敷きなどが行われ、待避所6カ所が完成しました。



1

### 【乗合タクシー運行】

乗合タクシー出発式が11月1日、東和総合支所前で行われました。同地区では沢沿いに集落が点在するなど、市民バスが運行できない地域もあり、平成18年1月からデマンド型タクシーを活用した市民タクシーを試行。今回、地元の有志が主体となり、「米川地区乗合タクシー運行協議会」を設立し運行することになりました。この乗合タクシーは、地域住民による自主運行と利用登録制が特徴となっています。



2

### 【若草山公園整備作業】

若草山公園の環境整備作業が11月8日に行われ、米川小全校児童101人と地域住民約30人が参加しました。作業は事前に緑木と砂利が設置された散策道に、地元の製材所から購入したスギのチップ材を児童らが学年ごとに整列してバケツリレーで運びながら、5センチの厚さで敷きならしました。その後、地域住民が接着剤で固める作業を行い、チップ材が敷き詰められた新しい遊歩道が完成しました。



1車がすれ違うことができない華足寺北側山道の待避所整備 2乗合タクシー出発式の模様 3若草山公園の散策道にスギのチップ材を敷きならす米川小児童ら

# 三世代で交通安全を学ぶ

## 米山町善王寺地区で交通安全普及啓発事業

子どもから高齢者までの三世代が一堂に会して、交通安全の意識を高め合う「みんなが学ぶ交通安全（世代間交流交通安全普及事業）」が11月4日、善王寺コミュニティセンターで行われました。

この事業は、(社)全国交通安全

全母の会が国から委託されたもので、全国24都道府県で今年度の開催。宮城県内では登米市が選定され、米山町善王寺地区の親子や高齢者約130人が参加しました。

開会式では、善王寺小交通安全少年団の千葉裕真君と衣川賀奈子さん（ともに6年）が、力強く誓いの言葉を発表。その後、参加者全員が3班集体となり、交通安全トレーニング、交通安全OXクイズ、交通安全カルタゲームを行いました。

また、外では大型自動車による巻き込み実験や、自動車と自転車



読み札が交通安全標語になっている交通安全カルタ



酒酔い体験ゴーグルを付けてまっすぐに歩けるかどうか体験する参加者

また、外では大型自動車による巻き込み実験や、自動車と自転車を使った衝突実験を実施。運転動作の機敏性などを診断する運転適正検査（CRT）、白バイ乗車体験なども行われました。

両腕両足に重りと酒酔い体験ゴーグルを付け、つえを使って交通安全トレーニングを体験した佐久間孝太君（4年）は、「思っていたより歩くのが大変でした。これからは交通ルールを守りたい」と話していました。

# カボチャで ランタン作成

## 国際交流協会ハロウィンパーティー



オバケなどの衣裳に仮装した協会関係者と市内ALT

ハロウィーンパーティー（市国際交流協会主催）が10月30日、迫公民館で開催され、協会関係者と市民約70人が参加しました。

パーティーは、各家庭で作った料理などを一人一品持ち寄りました。



各家庭から持ち寄った料理や会話で楽しむ参加者

ち寄る「ポットラック」形式で開催。協会関係者らがオバケや映画の主人公などに仮装して盛り上げました。

また、8月に登米市へ配属となった新任ALT（外国語指導助手）の紹介や、大小さまざまなカボチャを使ってランタン作りも実施。参加した子どもたちは、思い思いに作ったカボチャランタンに火をともし、会場は幻想的な雰囲気になりました。

参加した人たちは「普段話す機会のないALTと話ができ、楽しい時間を過ごせました。初めてカボチャでランタンを作成しましたが、意外と簡単にできたので家に帰ってからもやってみよう」と話していました。